

令和8年度 一般選抜前期日程 経済経営学部 英語  
出題の意図と解答の傾向

英語力を総括的に測るために指示、設問も全て英語による出題とした。

Reading Section

【出題の意図】

若者たちの日常と親近性が高い場面から文化的・社会的な話題まで広範囲のトピックを取り上げ、それらに対し英文の正確な内容把握・処理力を測ることを目的とした。具体的には、テキストメッセージ、文化的エッセイ、自然科学系読み物、案内文、新聞記事などを出題した。高校卒業程度の英語力を基盤とし、設問に対する解答を正確に見つけ出す読解力に加えて、語法の知識を使用し文脈から状況を把握する力や論理的に解釈する力、現在の社会情勢にまつわる文章を読み取る問題も出題した。

題材の総数は6種類、総設問数は25問とした。最初の問題は、日常的に起こりうる事態に関するスマートフォンのメッセージのやり取りで、設問は4問設けた。二題目は、旅先で道を尋ねた時の回答の仕方にもつわる文化的読み物とし、設問は4問とした。三題目は、1週間の身体トレーニングのプランと注意事項を含んだジムトレーニングの案内とした。簡潔な英文を読み、トレーニングのプロセスを把握する力を測る出題とし、設問は4問設けた。四題目は、ハワイの文化や言語についてのエッセイとし、語彙問題を含む4問を出題した。続く五題目は、太陽が沈まない・昇らない時期がある地域についての地理的要素を持つ自然科学的読み物とした。語群を参考に自然科学の知識も利用し、イメージしながら読み進め、課題や対策を読み取ることを求めた。総語数はこの度の大問で最も多い約700語、設問は4問とした。六題目は、日本の外国人労働者についての新聞記事からの引用とした。この問題は近年ホットな話題でもあるので、社会情勢への関心が高い学生には比較的身近なトピックであった可能性がある。語数は380語、設問は5問とした。

【解答の傾向】

Reading sectionの正答率平均は60%であった。大問に関して、最も正答率が高かったのは一題目のテキストメッセージで、続いて五題目の極夜と極昼についての読み物、六題目の外国人労働者に関する新聞記事で、いずれも7割以上の正答率であった。正答率が低かったのは二題目の旅先で道順の質問に対する返答に関するエッセイと四題目のハワイの文化に関する読み物で、4割弱の正答率であった。

設問のうち、最も正答率が高かったのは、一題目のテキストメッセージの設問2で、やり取りからメッセージを打っている学生の居場所を読み取り、解答する問題だった。次に正答が多かったのは、三題目の設問12で、ジムトレーニング機器の使用により鍛えられる体の部位を問う問題であった。これら2問は本文中に明示的に情報が示されているため、比較的解きやすかったと思われる。一方、正答率が最も低かったのは、四題目のハワイ文化の設問13で正答率は約3割だった。本文と一致しないものを選ぶ問題で、解答選択肢の英文が本文と異なる語彙・表現で書かれていたり、本文中の複数の箇所でも述べられている内容が解答選択肢ではひとまとめになっていたため、受験者が混乱した可能性がある。英文を正確に読んで全体像を把握する力、推測を交えながら読み進める力、暗に述べられている事柄を読み解く力が求められる。

一題目のテキストメッセージは、テキストメッセージ特有の省略・簡素化されたテキストから流れや情

報を読み取る問題などを出題した。受験生には馴染みのあるタイプの問題だったためか、全問正答率が高めであった。二題目の旅先での道順への答え方についての読みものの問題は、カリフォルニア、ギリシャなどの地名ごとに描写があり、解きやすいと思われたが、予想外に正解率が低かった。特にエッセイの主旨を答える設問5の正答率が低く、33%だった。様々な地名が出ていることに影響され掴みづらくなったのかもしれない。多くの情報があってもメインアイデアを読み取る力が欲しい。設問7と設問14は語彙問題として、それぞれ適切な接続副詞と同義語を選ぶ問題としたが、正答率は5割程度であった。読解に必要なレベルの語彙力も意識してほしい。五題目は、地球の地軸が傾いていることから起こる極夜と極昼に関する読み物であったが、全問正答率は約7割と比較的高かった。様々な分野の情報を英語で読み取ることができるよう、幅広い分野のものを読むことが対策となるであろう。

## Writing Section

### 【出題の意図】

近年、話題となっている日本国内の外国人労働者とその家族との間で生じる課題の解決や共存について地域社会ができる対策を考え、英文で論理的に説明する力を測ることを目的とした。地元住民、地元企業、自治体などができることを、その理由と具体的な例を挙げて100語程度の英語で論理的に説明することを求めた。英文パラグラフの構成の基本的な知識ならびに適切な英語表現の知識を測ることも目的とした。

### 【解答の傾向】

つなぎ語、大文字・小文字の使用は比較的できており、またある程度の分量が書けている解答も一定数見られた。パラグラフ構成については、ややばらつきが見られ、特に主題文は書けているものと、そうでないものの差が大きかった。毎年のことであるが、問題文の読み間違いも多く、指示した内容について書けていない答案もあった。短時間で指示を正確に把握する英語力も重要である。

地域社会としてできることとして挙げられたものは、「日本人の語学教育」「交流の場」「多言語サポート」「外国人労働者への日本語教育」「外国人労働者雇用の促進」などがあつた。支持文では、挙げた対策について、その理由と具体例の両方を書くことを求めたが、具体例が書けていないものが多かった。パラグラフの結論文は、主題文と同じ内容を使用表現を変えた英文にすることや、支持文で述べた内容をまとめた文であることが求められるが、これらの点を満たしたものは少なかった。また、使用表現については、定型表現の使用が少なかった。定型表現は英文の読み易さや伝わり易さを高めるため、これらを使用した英文を書けるような対策をしてほしい。

外国人労働者の受入については、報道でもよく取り上げられており、多少背景知識を持っている受験生も多かったのではないだろうか。報道では、「問題点」を取り上げている場合が多い影響か、地域社会が取り組むことができる対策ではなく、外国人労働者受け入れから生じる「問題点」について書いている答案も多く見られた。出題文を慎重に読んでから書き始めるよう心掛けてほしい。パラグラフ構成の知識や、英語らしい表現、社会情勢に対して自分の意見を述べることができる姿勢も含めて準備をしてほしい。